

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

165 号

NPO 法人 出発のなかまの会



あけまして
おめでとう
☆
☆

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可
毎月 1・2・3・4・5・6・7・8 の日 発行

もくじ
目次

あら 新たなるあゆみへ	2
はじめまして！ たびたん です！	3
しょうがいしゃ く ささ 障害者の暮らしを支えるものは	4
きゅうしゅう りょこう 九州 ペンギンふれあい旅行	5
たびだち かい おうえん ねが 出発のなかまの会の応援よろしくお願いします！	6
たいかい なら い ピープルファースト大会in奈良 行ってきました！	8
しんぶん どんどん新聞	9
こそだ にっき スタッフ子育て日記	10
れい お礼	10
わたし ちいき く 私たちは地域で暮らしているんだ	11
かつどう 活動のあと	12

あら
 新たなるあゆみへ

平成最後の年、そして干支も最後となる亥年の 2019 年がはじまりました。イノシシ年だけにいつも以上に突っ走っていきと思います。

1 年をあらわす漢字が「災」となるほど、去年は災害に見舞われた年でした。特に街路樹が倒れるほどの猛烈な台風は初めての体験でした。台風の影響で交通機関が麻痺したり、停電が発生したり、エレベーターやトイレが使えないなど、大変な状況が続いたことはまだまだ記憶に新しいところです。

大阪北部地震の後、メンバーや多くの団体の方とともに協力して、声を上げ、街頭募金を実施しました。グループホームの近隣のお宅では、台風 21 号で屋根瓦が飛ばされてしまいました。雨が降ってくる前に、応急処置的に屋根にブルーシートを張るお手伝いをしました。また、いつも作業所のランドリーを利用してくださっている地域の方を心配してその方の家へ安否確認に走ったスタッフもいました。近所の方も「大丈夫だったか」と声をかけてくれました。大変な思いや体験をしましたが、今回の災害を受けて、私たちは地域のつながりの中で生きていることを改めて実感しましたし、そこで新しいつながりも生まれました。

今後、南海トラフ地震が起きるだろうといわれています。地球規模の異常気象も続いています。防災や減災の準備と取り組みを私たちも続けていきますが、これからの時代は自然災害が続くことが予想されるでしょう。災害が起きないようにと祈るより、災害とどう付き合うのか、共存していくのかを考えていく必要があります。災害は非日常ではなく、日常として受け入れること、そのつもりで今を生きていくこと、そんなころづもりを持ちたいと思います。そして多くの人とつながり続けながら、支え支えられながら、これからの時代を地域の人たちとともにメンバーとともに生きていきたいと思っています。

本年は、出発のなかまの会が発足して 40 年となる節目の年です。振り向けばあっという間、そして語り尽くせぬほどいろんな事があった 40 年でした。その活動のあゆみを振り返るようなイベントを企画し、まさに「災」から「祭」へと変わっていく、新たな時代へと踏み出す年となりますように。停滞する日本社会においてもしっかりと地に足をつけ目的に向かって邁進できますように。どうか本年もよろしく願いいたします。

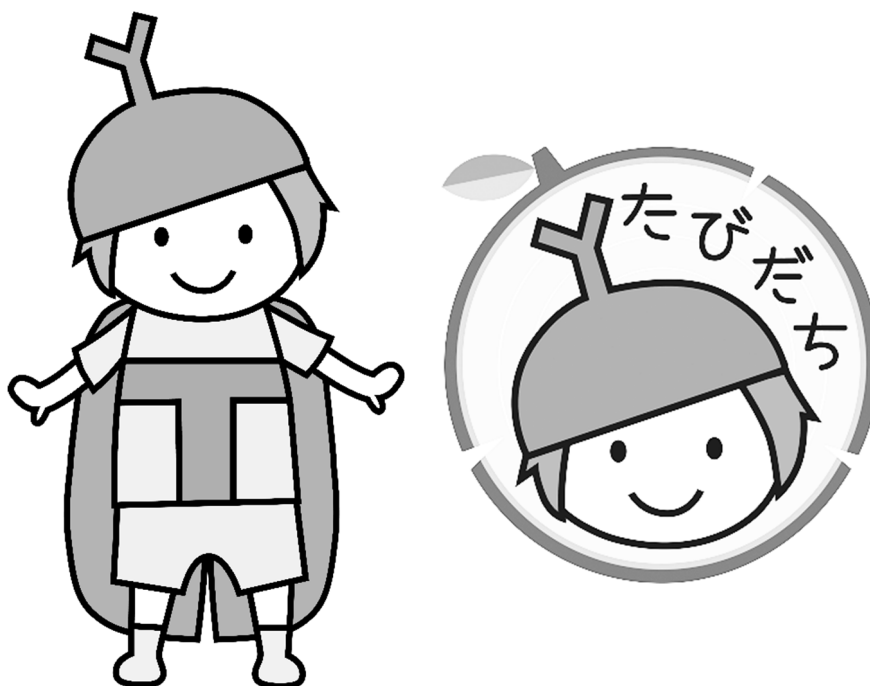
(サトシ・M)

はじめまして！ たびたん です！

団体設立40周年を迎えるにあたり、新たなキャラクターが生まれました。名前は、「たびたん」です。キャラクターの原案をメンバーやスタッフ、ヘルパーさんたちから公募し、選考とデザイン検討を何度も重ねてデザイン化されました。

これまでも象徴的に使用してきたカブトムシは、メンバーがまだ子どもだった頃、一緒に野外活動をするキャンプ場と家を作るために、山の木を切り倒してみんなで運んだという会の原点を物語るエピソードに由来しています。

これからさまざまなシーンでたびたんが活躍してくれることと思います。たびたんと共に出発のなかまの会の新たな1ページを開きましょう。なお、デザインはカラー配色されています。そちらは出発のなかまの会ホームページにある「スタッフブログ」で公開していますので、ぜひのそきにきてくださいね。



tabidati.jp

けんさく
で検索してね！

またはこちらから！



障害者の暮らしを支えるものは

寝る前にみたネットニュースで、神奈川県が相模原市にある津久井やまゆり園の再建について近隣の住民に向けた説明会を開いたと知った。参加した住民は 20 名だったそうだ。解体工事が完了した後、同一敷地内に新たな居住棟を建てる建築工事が始まる。現在の様子を神奈川県ホームページで確認すると、既に献花台を設置するために入口付近をセットバックさせて囲いが建てられている。建物が完成すれば、130 人の障害者があの場所へ戻ることになる……。利用者に「意向を聞いた」結果だというのが、利用者本人の意向をだれにどうやって聞いたのだろうか。入所施設の暮らししか知らない利用者やその家族が施設以外の暮らし、すなわち、地域での暮らしを想像することが果たして可能なのだろうか。そんな疑念を拭えないと同時に、あのような凄惨な事件が起こった施設を解体できなかった無念と怒りが湧き起こった。

厚生労働省は今年度初めに医療・福祉・介護の報酬改定をおこなったところであるが、早速次回改定に向けた基礎調査にとりかかっている。というわけで、今年度は事務所に次々調査票が送られて来ており、その対応に時間をとられることもしばしばである。しかし、この調査データが次回報酬改定の基礎情報となると思うと、しっかり答えなければとも思う。次回の報酬改定では、現在経過的に認められている、グループホームに住まいながら居宅介護を利用する制度の恒久化について諮られることになるだろう。今回の報酬改定前におこなわれた団体ヒアリングで一番多く要望として出されたのが「個別ヘルパーの恒久化」である。本制度は、障害の重度化、障害者の高齢化に対応するだけでなく、個人の希望する暮らしを支え、一人の人間として尊厳ある支援を確保するためにも絶対になくしてはならない制度だ。全国のなかまとともに国に強く制度の恒久化を訴えていく。

グループホームの近くで単身生活をする方を支える、グループホームのサテライトという制度があるが、これには原則 3 年という年限がついており、利用実態があまりつかめていない。全国にどれくらいの数のサテライト住居があるのか、どのような方が利用しているのか、支援の中身はどのようなものなのか。厚生労働省の委託を受けて、グループホーム学会がおこなっている全国悉皆調査の結果で少し実態がみえてくるかも知れない。厚生労働省は 3 年間でサテライト住居に住む障害者が、グループホームの支援が不要な状態に移行することを想定しているのだろうが、実際はそのようにトントン拍子にステップアップできるわけではないし、グループホームの支援を使いながら単身での生活を続けることを望む障害者

もいる。どの障害者も必要な支援を使い続けられるように私達は国に強く訴えていかねばならない。

今年度から、重度訪問介護を利用している人のうち、区分6の人だけではあるが、熟練ヘルパーが新人ヘルパーに同行することが評価され、重度訪問介護の支給時間数に「同行支援」120時間が上乘せされるようになった。「同行支援」の利用者は著しく重度の障害がある方も多く、医療的ケアが必要であったり、常時見守りが必要な場合もある。新しいヘルパーを育てるのに、非常に細やかな指導と、新しいヘルパーが独り立ちするまでに時間を要する。新しい制度ができたのはとても良いことなのだが、実際の運用では自治体のシステム上の問題で、〈8月30時間〉、〈9月30時間〉、〈10月60時間〉といった具合に、複数の受給者証が利用者のもとに送られてくることになった。これがわかりにくいことこの上ない。利用者も、事業所の職員も、区役所の職員も大変困っている。私としては、上限が決まっているのだから、利用者と事業者が自分達で時間数を管理したらいいのではないかと思うのだが、「上限を超えて利用されると困るのでそれはできない」というのが行政の立場だ。それならば累積時間を管理できるシステムを構築するべきではないか。

これまでも障害福祉サービスは障害者の連帯と地道な運動によって切り拓かれてきた。新しいサービスができる一方で、なくなっていくサービスもある。それでも、「入所施設はいらない!」「ひとりひとりに必要な介護時間を出せ!」「私たちが抜きに私たちのことを決めな!」といった基本的な要求と姿勢はずっと変わらない。それらは言い換えれば、一人の人間として当たり前前の生活をできるようにすることだ。そのために何が必要なのかしっかりと国や自治体に対して訴えていきたい。

(カオリ・I)



どんどん新聞 No.172 号から抜粋しています

しんぶん
どんどん新聞 No.172



はっこうび 2018 年 11 月 12 日
発行日
はっこうしゃ じりつせいかつ
発行者 自立生活センター・どんどん
おおさかしいくのくたしま
大阪市生野区田島 1-10-30
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



ふくしまけんしゅうりょこう 福島研修旅行に行きました！

にちじ 2018 年 6 月 22 日～24 日 場所: 福島県郡山市・あいえるの会

◆いろいろな人と話をしたぞ～！

KさんとTさんが研修旅行で福島の“あいえるの会”で講演をしてきました。

あいえるの会に到着すると、まずTさんが「こんにちわー」と事務所に入っていきました。続けてKさんも入り、挨拶をして、ふたりともあちこちで声をかけまくりました。以前、大阪に来てくれたMさんとも再会しました。

2日目は講演本番です。今回はYMOという当事者の集まりの中で、どんどんの話をしてほしいという依頼でした。自己紹介をして、どんな気持ち？をしました。

どんどんの活動報告では、行政との交渉や、『スタッフ懇談会』の話を話すと驚きの声があがり、みなさん食い入るように聞いてくれました。Kさんも、一人暮らしをしていることや、とりの木での仕事の話を話しました。講演が終わりTさんは、外に出て帰る人たちを1人1人お見送りをしていました。

最終日は“小さな森の和美術館”で、今後の打ち合わせをしました。

打ち合わせが始まると、『大阪や福島、全国のメンバーと語り合う合宿をやりたい』とSさんが提案しました。来年の6月に福島で開催することを目標に、まずは大阪でプレ企画をしようということになりました。交流が広がっていけば、どんどんの活動をもっとたくさんの人に知ってもらえます。これからも、もっと交流を深めていきたいです！！

ピープルファースト大会 in 奈良 行ってきました！

12月1日～2日にかけて行われた【ピープルファースト大会 in 奈良】、入職して2年目の私ですが、今回初めて参加しました。Kさんのガイドとして会場へ。道中には真っ赤なきれいな紅葉が沢山あり、一緒に会場に向かったHさんTさんと「秋だな～」とお話しながらみんなで記念撮影をパシャリ。そして受付を済ませ、いざ会場へ！会場は全国各地から集まった当事者の団体であつという間に埋め尽くされました。

いよいよ全体会が始まり、開会式では全国から集まった参加者を都道府県別に紹介。気になる人数ですが大阪府からはなんと約240人！どこよりもダントツに多くて驚きました（ちなみに開催地の奈良は約190人でした）。そしてなんと韓国、スウェーデンからも当事者の方が参加されていました。これには驚きと歓声で会場のボルテージがMAXに。とても圧倒されました。

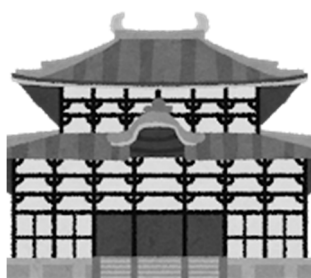
次に制度の話や旧優生保護法、塩田裁判に相模原事件。そして福島の話が話されました。私自身、旧優生保護法等はニュースで見たり資料を読んだり…という知識しかなかったのですが、実際にお話を聴くことができ、改めて事の重大さを感じました。もっと世間に広まり、障害のある方にとって過ごしやすい社会が早く実現することを願っています。

そしてお待ちかねの交流会！先輩スタッフから「食事は戦争だ」と聞いてはいましたが、想像以上の速さで皆さんがバイキング料理に向かい、一瞬でなくなるという驚きの光景でした。食後のスイーツが並び、偶然近くにいた私が負けじとほぼ全種類取りテーブルに戻ると…まさかの「もう帰るよ」と！慌ててみんなで食べました。美味しかったです。そして、当事者の方同士の名刺交換に職員との交流も沢山できとても充実した日でした。

2日目は分科会。私は現地にはいかなかったのですが、参加したTさんから話を聞くと「とても楽しかった」とのこと。次はガイドとして参加してみたいなと思うくらいのキラキラした笑顔でした。

次の開催地は大阪に決定！いまから少し楽しみです。

(アヤノ・F)

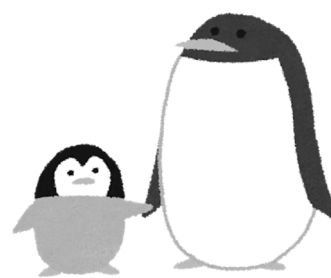


九州ペンギンふれあい旅行

Yさんの好きな昆虫やペンギンを少し足を延ばして見に行こうと考えていたが、いろいろ検討する中で長崎にあるペンギン水族館に行き先が決まった。旅行計画を進めるうちに「今年の夏に亡くなった佐世保のおばあちゃんの仏前にお参りができないか」という提案があった。Yさんのお母さんはこの提案をととても喜んで下さり、佐世保で暮らす妹さんに連絡を取って下さった。

当日は飛行機を利用し長崎へ移動。ペンギン水族館へ向かった。大好きなペンギンを柵越しではなく間近に見る事が出来、大満足して水族館を後にした。

夕方に佐世保へ移動しハウステンボスで食事と買い物を楽しむ事になっていた。列車に乗り、車窓からの景色を楽しんでいると、急患があり緊急停車すると車の放送がかかった。救急車が来て患者が搬送されるまでの間、車掌や駅員が忙しく



動くのをただ見ているしかなかった。Yさんの顔にも疲れが出ていたが、夜の間にイルミネーションが映えるハウステンボスの光景を見たYさんの目がキラキラと輝いたのを見るとほっとした。

次の日、待ち合わせ場所の佐世保駅に着くとYさんの名前を呼ぶ声。「お母さん？」振り向くと、声もそうだが背格好もYさんのお母さんにそっくりな妹（叔母）さんがいた。ご主人と娘さんも休みを取り一家で迎えてくださった。祖父母の仏前にお供えをし、手を合わせた。持って行った動画やアルバムで日々の様子を見て頂き、会話が弾む。娘さんの運転で案内されたお店でおいしい昼食をごちそうになった後、佐世保観光に出掛けた。展海峰の満開のコスモス畑の中で記念撮影をし、4年ぶりに会った親族との楽しい時間を一緒に過ごさせて頂いた。時間はアツという間に過ぎてしまった。車で駅まで送って下さり、楽しかった時間を惜しみながらホームへと向かった。人とのコミュニケーションが難しい事も多くあるYさんがずっと笑顔で過ごされていたことに気づき、ふっと優しい気持ちになれた。

夕食のお弁当を買い、新幹線さくら号に乗り込んだ。広島駅近くで前走の車両の人身事故を知らせる車内放送が入り、新幹線は停車した。この状況でYさんに車内でどう過ごしてもらえばよいかを考え、持っていたタブレットで好きな動画を見てもらうことにした。すると、そばにいたオランダ人の家族が連れていた男の子が興味を示し近づいてきた。

Yさん、私、動かない新幹線の中でダダをこねていた2歳のオランダ人、3人のふしぎなやりとりが周りを巻き込み、張り詰めた空気が一気に和んだ。3時間後に新幹線がやっと動き出した。新神戸で先に下車した中年のご夫婦らしいカップルが「今日はありがとうございました。お先に」と、誰にとでもなく挨拶をして降りていき、オランダ人の家族は私達と一緒に記念撮影をして、手をふりながら降りて行った。2度も交通トラブルに巻き込まれた今回の旅行だが、思い返すとなんとも不思議な優しい気持ちがよみがえる素敵な旅だった。

(ミカル・K)

たびだち かい おうえん ねが
出発のなかまの会の応援よろしくお願ひします！

いつも当会の活動にご支援いただきありがとうございます。今後も“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、当事者の方や地域の方と共に、日々の活動をとおして『地域』づくりの取り組みをすすめていきたいと思ひます。正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

◆ 正会員・・・活動を支援し、総会に参加してくださる個人の方

会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆ 寄付者・・・活動を支援してくださる個人・団体の方

寄付金 年間3,000円以上

★ 認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置

【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】を受けられるようになります。

☆ 振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

こそだ にっき スタッフ子育て日記

早いもので長女がこの春に高校を卒業し、大学入学を迎える。メンバーや親御さん、スタッフの中には誕生の頃から知っていた人もおり、月日の早さに感慨を覚えるのは自分だけではないかもしれない。

子どもは時間の経過とともに、親子、姉妹、家族から同級生、先輩、友人などの（外の）世界へと行動（範囲）も関係もうつっていく。それが「成長」というものだろう。時には成長を阻害するような言動や行動をしてしまっていたかもしれない。異性ゆえに「距離」や「会話」に困ることもあった（今もある）。夜泣きをしていたにも関わらず、その横でスヤスヤとまるで自分が子どものように寝ていたことも一度や二度ではない。幼少期に入退院を繰り返していたので、なかなかついてもらえなかった（のはい言訳である）。そんな「父親」と呼べるほどのことは何も出来ていない中でも子どもは育ってきた。

わたしは節目の50歳を迎えた。メンバーや親御さんに鍛えてもらいながら活動してきた、これまでの時間よりもこの先の方が短いという年齢になった。そんな年齢に差し掛かったからだろうか、リタイア後の「男性の居場所」ということが気にかかっている。仕事一筋でプライドを持って取り組んでいることが、その人を支えている自尊心でもあるだろう。それを失うと「喪失感」に苛まれ、自分の「居場所」を失ったと感じる人もいるのではないだろうか。

メンバーのお父さん方の多くも定年を迎えている。折りしも、社会福祉協議会から「男の居場所」という講座を松野農園で開催させてほしいという依頼があった。「会社（職場）」への貢献から、培ってきた自分のスキルや経験を「地域」等でいかす貢献へ。「女性が輝く社会」も大切だ。と同時に、子どもも大人も、男性も父親も「誰もが輝ける社会」になるために活動していきたいと思う。

(トオル・Y)



お礼

生野区社会福祉協議会善意銀行事業より米45キロをいただきました。ありがとうございました。

わたし ちいき く 私たちは地域で暮らしているんだ

自然災害に対して備えはしていても、まさか自分の所には来ないだろうと心の中では
他人事のように思っている人も多いと思います。しかし今年(ことし)は6月(がつ)の大阪北部地震、9月(がつ)の
台風21号(たいふうごう)と、そのまさかが2度(ども)も来てしまいました。

Nさんは昔(むかし)ながらの長屋文化住宅(ながやぶんかじゅうたく)で一人暮らし(ひとりぐ)をしています。幸(さいわ)いにも住居(じゅうきょ)への大き
な被害(ひがい)はなかったのですが、地震(じしん)では立付け(たてつけ)が悪(わる)くなって玄関扉(げんかんとびら)の鍵(かぎ)がかけられなくなり、
台風(たいふう)ではあたり一面(いちめん)ゴミ(さんらん)が散乱(さんらん)し、Nさんにとっては大変(たいへん)困(こま)った状(じょう)況(きやう)になりました。どち
らのときも、支援者(しえんしゃ)が駆け付け(かかけ)るよりも早(はや)く隣(となり)に住むおばさん(おおや)や大家さん(とびら)が扉(しゅうぜん)の修繕(どう
ろ)の片付け(かたづけ)を手伝(てつだ)ってくれてNさん(おおだす)も大助(おおだす)かりでした。

お二人(ふたり)には災害(さいがい)時(じ)だけでなく、Nさん(ぶんか)の文化住宅生活(ぶんかじゅうたくせい)約(やく)15年(ねん)の間(あいだ)に起(お)こった大(だい)小(しょう)様(さま)々(々)
なトラブル(とく)の時(とき)も、周(まわ)りの人(ひと)とNさん(あいだ)の間(あいだ)に入(はい)っていただき、Nさん(ちいき)の地(じ)域(ぎ)生活(せい)を支(さ)えても
らっていました。

6月(がつ)の地震(じしん)の際(さい)、後(ご)日(じつ)支援者(しえんしゃ)と一(いっ)緒(しょ)にお菓子(かし)を買(か)って、お二人(ふたり)にお礼(れい)を伝(つた)えに行(い)きました。

Nさんは、なにかあるとすぐ(おこ)に怒(おち)られたと思(おも)って「すみません」と謝(あやま)ったり、「あなたは
自分(じぶん)の味(み)方(かた)ですよ(ね)」という意(い)味(み)で「なかよし」と確(かく)認(にん)していましたが、「ありがとう」や
「助(たす)かりました」など感(かん)謝(しゃ)を伝(つた)える方(ほう)法(ぽう)がわ(わ)か(か)ら(ら)な(な)か(か)つ(つ)た(た)よう(よう)です。し(し)か(か)し(し)こ(こ)の(の)時(とき)に(に)感(かん)謝(しゃ)の
気(き)持(も)ち(ち)に(に)お(お)菓(か)子(し)を(を)贈(おく)ら(ら)ば(ば)い(い)い(い)ん(ん)だ(だ)と思(おも)つ(つ)た(た)よう(よう)です。

10月(がつ)に名古屋(なごや)に遊(あそ)びに行(い)った時(とき)にはお菓子(かし)を買(か)ってき(き)て、帰(かえ)つ(つ)てき(き)た(た)そ(そ)の(の)足(あし)で(で)す(す)ぐ(ぐ)お(お)二(ふた)人(り)
にお土産(みやげ)を渡(わた)しに行(い)きました。「長年(ながねん)隣(となり)で一(いっ)緒(しょ)に生(せい)活(かつ)して(して)い(い)る(る)け(け)ど(ど)、N(えん)さん(さん)か(か)ら(ら)モ(も)ノ(の)を(を)も
ら(ら)つ(つ)た(た)の(の)は(は)初(はじ)め(め)で(で)し(し)た(た)」と、と(と)て(と)も(も)嬉(うれ)し(し)そ(そ)う(う)に(に)お(お)礼(れい)の(の)連(れん)絡(らく)を(を)い(い)た(た)だ(だ)き(き)、こ(こ)ち(ち)ら(ら)も(も)は(は)じ(じ)め(め)て
そ(そ)の(の)こ(こ)と(と)を(を)知(し)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。

地(ち)域(ぎ)で(で)の(の)助(たす)け(け)合(あ)い(い)や、支(さ)え(え)合(あ)い(い)、お(お)す(す)そ(そ)分(わ)け(け)や(や)お(お)土(ど)産(さん)を(を)渡(わた)し(し)あ(あ)う(う)こ(こ)と(と)な(な)ど(ど)、昔(むかし)は(は)当(あ)たり(り)前(まえ)
の(の)よ(よ)う(う)に(に)あ(あ)つ(つ)た(た)つ(つ)な(な)が(が)り(り)が(が)薄(うす)く(く)な(な)つ(つ)て(て)き(き)て(て)い(い)る(る)と言(い)わ(わ)れ(れ)て(て)い(い)る(る)中(なか)でも(も)、ま(ま)だ(だ)そ(そ)れ(れ)は(は)残(のこ)っ(っ)て(て)い
ま(ま)す(す)。そ(そ)の(の)よ(よ)う(う)な(な)地(ち)域(ぎ)の(の)つ(つ)な(な)が(が)り(り)が(が)、N(えん)さん(さん)の(の)よ(よ)う(う)に(に)障(しょう)害(がい)があ(あ)つ(つ)て(て)も(も)地(ち)域(ぎ)で(で)暮(く)ら(ら)す(す)人(ひと)の(の)大(だい)き
な(な)支(さ)え(え)に(に)な(な)つ(つ)て(て)る(る)こ(こ)と(と)に(に)改(あらた)め(め)て(て)気(き)づ(づ)か(か)さ(さ)れ(れ)ま(ま)し(し)た(た)。

そ(そ)の(の)よ(よ)う(う)な(な)つ(つ)な(な)が(が)り(り)が(が)今(こん)後(ご)も(も)続(つづ)い(い)て(て)い(い)く(く)よ(よ)う(う)に(に)、自(じ)分(ぶん)た(た)ち(ち)も(も)N(えん)さん(さん)の(の)よ(よ)う(う)に(に)素(す)直(なお)に(に)感(かん)謝(しゃ)
を(を)伝(つた)え(え)る(る)心(こころ)も(も)つ(つ)づ(づ)け(け)たい(たい)と思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。

(シンパイ・H)

活動のあと

8/8	内部研修(てんかん発作②)/新人職員研修(どんどん)	10/20	さんままつり(松野農園)
8/9	大阪府オールラウンド交渉②	10/23	どんどん勉強会(対市交渉①)
8/10	そうめん流し交流会	10/24	生野区学童期の子ども支援連絡会
8/17	食と農のプロジェクトをすすめる会(社会福祉協議会) みらくるクラブ【高取山キャンプ】振り返り会	10/25	障大連行動援護勉強会 カンボジア報告会(NPO ちゅうぶ)
8/18	読書会(松野農園)	10/26	どろん(松野農園)/障大連運営委員会 地域共生ケア生野推進委員会役員会
8/19	ヨルダンひろば ぶれーぱーく	10/27	サラダボウルプログラム (まちの農園 de 多文化 in 松野農園)
8/20	災害支援「大阪一斉街頭カンパ」活動(桃谷駅) ひとり暮らし応援委員会	10/27~28	一泊避難宿泊体験/生野南防災訓練
8/22	大阪府オールラウンド交渉③/生野区 NPO 連絡会	10/29	ファミリー会食事会
8/23	ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編②】	10/31	生野子育て社会化研究会プレスセミナー
8/24	どろん(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会 生野南防災会議/障大連運営委員会	11/2	グループホームスタッフ全体会議
8/25	内部研修(発達障害勉強会)	11/6	ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編⑤】
8/27	障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	11/8	内部研修(人権研修②)/執行委員会 ILP(自立生活プログラム)講座【スケジュール管理編③】
8/28	作業所ミーティング/安全委員会	11/8	食と農のプロジェクト・アクションチーム会議
8/29	ランチ交流会 with ちゅうぶ	11/9	内部研修(人権研修③)/淡路島サイクリング旅行報告会 障大連大阪市内ブロック(対市交渉学習会)
8/30	友が島キャンプ報告会/成年後見推進委員会 ILP(自立生活プログラム)講座【スケジュール管理編②】	11/11	第4回みんなでゆ〜楽太極拳参加
8/31	内部研修(ワンポイント講座) 成年後見推進委員会「権利擁護たかつき」訪問	11/12~24	ゆうのゆうにて絵画展
9/2	第24回全国の集い in Osaka 2018 実行委員会	11/12~25	実習受け入れ(四天王寺大学)
9/3	ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編②】	11/13	どんどん学習会(対市交渉②)
9/4	たびだち共働作業所改修工事開始	11/13~15	鹿児島旅行
9/5	消防設備等法定点検①	11/14	松野農園文化交流祭 2018(松野農園)
9/6	消防設備等法定点検②	11/16	食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん(松野農園) 地域共生ケア生野推進委員会
9/7	グループホームスタッフ全体会議	11/17	内部研修(人権研修④)/内部研修(発達障害勉強会) アールブリュット展&当事者ライブ
9/8	みらくるちゅうぶ検討会議 インターン企画ボーリング大会	11/18	サラダボウルプログラム(松野農園)
9/10	生野子育て社会化研究会	11/19	大阪市オールラウンド交渉①
9/12	執行委員会/生野区グループホーム連絡会世話人会	11/20	理事会/大阪市オールラウンド交渉②
9/12~9/14	淡路島サイクリング旅行	11/21	生野区学童期の子ども支援連絡会/生野区 NPO 連絡会
9/14	研修受入れ(社会福祉法人イエス団)	11/22	ILP(自立生活プログラム)講座【スケジュール管理編④】
9/16	みらくるクラブ【ハイキング】 サラダボウルプログラム(松野農園)	11/23	第9回東北⇄関西⇄九州ポジティブ生活文化交流祭出店
9/19	きらら・らいすケア会議 生野区学童期の子ども支援連絡会	11/24	読書会(松野農園)
9/20	インターンシップ報告会 障大連グループホーム部会/八尾事件を考える会	11/25	みらくるクラブ【運動会】(舍利寺小学校) サラダボウルプログラム(松野農園)
9/21	食と農のプロジェクトをすすめる会	11/27	作業所ミーティング
9/22	読書会(松野農園)/内部研修(発達障害勉強会)	11/28	執行委員会/成年後見推進委員会
9/23~24	第24回全国の集い in Osaka 2018	11/29	内部研修(感染症予防研修①) どんどん学習会(ピープルファースト)
9/25	どんどんプロジェクト会議 作業所ミーティング/防炎委員会/障大連全体会	11/30	内部研修(感染症予防研修②)
9/26	内部研修(ワンポイント講座)ひとり暮らし防災会議 生野区 NPO 連絡会/アデランテ会議	12/1~2	ピープルファースト in 奈良
9/28	大阪市集団指導/どろん(松野農園)/出発通信発送 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会	12/7	グループホームスタッフ全体会議
9/29	サラダボウルプログラム(松野農園)	12/9	大阪障害者自立セミナー2018
10/3	障大連自立支援部会勉強会	12/11	生野区 NPO 連絡会
10/4	ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編③】	12/12	生野区グループホーム連絡会/鈴鹿旅行報告会 強制不妊手術裁判傍聴
10/5	グループホームスタッフ全体会議	12/13~14	京都旅行
10/7	閃き塾(松野農園)	12/14	「男性の居場所」講座(松野農園)
10/10	作業所ミーティング/生野区グループホーム連絡会	12/15	歌とピアノの音楽会(松野農園)/内部研修(発達障害勉強会)
10/11	執行委員会	12/16	みらくるクラブ【もちつき】(松野農園)
10/12	項目別ケア会議①(災害時対応) 作業所ミーティング/成年後見制度学習会	12/17	障大連事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
10/13	みらくるジャンプ(松野農園)/内部研修(発達障害勉強会)	12/19	かのんケア会議
10/14	サラダボウルプログラム(河内長野 BBQ)	12/21	食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん(松野農園) 障大連運営委員会
10/15	項目別ケア会議①(災害時対応)	12/22	地域共生ケア生野推進委員会役員会
10/16	ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編④】	12/23	みらくるジャンプ(松野農園)
10/17	生野区 NPO 連絡会研修・交流会	12/23	内部研修(職員パワーアップ会議)
10/18	八尾事件を考える会	12/24	サラダボウルプログラム収穫祭(松野農園)
10/19	食と農のプロジェクトをすすめる会	12/26	らいすケア会議/執行委員会/生野子育て社会化研究会 アデランテ会議
		12/27	内部研修(ワンポイント講座)
		12/28	作業所もちつき

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の(日) 発行
 発行人 関西障害者定刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二二一 東興ビル4階 頒価百円

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
 今年で平成が終わりを告げます。元号は世界で
 唯一日本だけが使っているそうです。西暦換算
 は面倒ですが、思い出は元号と紐付けされてる
 気がします。次はどうなるんでしょうね？

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
 〒544-0011
 大阪市生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内
 TEL 06-6758-6641
 FAX 06-6758-6749
 郵便振替 00910-9-306080
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
 Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
 ホームページ http://www.tabidati.jp/ 750部